

完成により土地利用がさらに活性化し、地区全体の発展が期待されています。



川島排水機場



まわりを川に囲まれている川島町



ポンプ室フロア

川島排水機場

川島町は周囲を5つの川に囲まれており江戸期から頻発する水害に苦しめられていた地域です。この川島町の南側の内水被害を低減させるため、1981（昭和56）年に川島排水機場を整備し、さらに1994（平成6）年、2001（平成13）年にポンプを増設しました。

2007（平成19）年9月台風9号の出水時には、川島排水機場を稼働させることにより約280haの浸水面積を低減しています。また、川島排水機場や周辺の排水路の整備により、排水状況が改善され、圏央道川島インターの整備やそれに伴う産業団地、ショッピングモールの立地促進にも貢献しています。

▶ 川島排水機場のスペック

東に荒川、西に越辺川・都幾川、南に入間川、北に市野川と、四方に5本の川が流れている川島町は、川に囲まれた島状の土地であることから「川島」の名が付いたとされています。江戸時代には集落を輪のようにとり囲む「囲堤」と呼ばれる堤防が築かれていましたが、水害の解消までには至らず、長い間、水との闘いが続いてきました。

1981（昭和56）年、入間川に建設された川島排水機場は、これまで排水施設が不十分で、荒川及び入間川の外水の影響を直接受けて内水被害が絶えなかった川島地区に大きな安心をもたらしました。

この時の工事では、ポンプ規模10立方メートル/秒×1台が設置され、1994（平成6）年に1台を増設し、2001（平成13）年にさらに1台を増設しました。

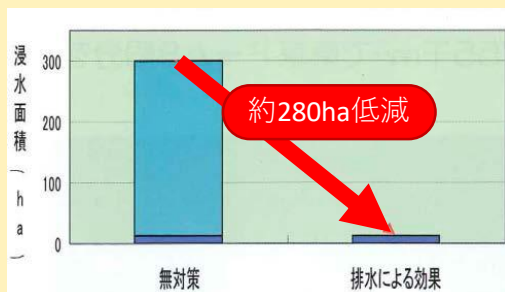
【川島排水機場諸元】

- ・完成年 : 昭和56年8月（排水機場完成：1台）
平成6年8月（ポンプ増設：1台）
平成13年3月（ポンプ増設：1台）
- ・形式 : 立軸斜流式
- ・総排水量 : 30m³/s（主ポンプ3台）
- ・排出量 : 10m³/s
- ・口径 : 2000mm



▶ 川島排水機場を稼働させ内水被害を防止（2007（平成19）年9月洪水）

2007（平成19）年9月台風9号の出水時には、川島排水機場を稼働させることにより約280haの浸水面積を低減しました。



浸水面積の比較



浸水区域と排水機場の効果（想定）

コラム

川島排水機場の整備等により排水状況が改善され産業立地にも貢献

川島地区は、かつては大雨で地区の多くが水につかる有様でしたが、地区内の主要排水路の整備率も上昇し、さらに川島排水機場が整備され、その働きにより、排水状況が改善しました。圏央道の川島インターを整備するときも、道路の排水が課題でしたが、川島排水機場があることで排水は可能となり、川島インターの整備が進められました。インターができ、周辺には産業団地やショッピングモールがオープンしました。また、新たに産業団地の計画も進むなど、川島排水機場の整備は、川島地区の地域発展にも貢献しています。



川島インター産業団地の整備状況（平成25年2月）

川島インター産業団地の整備状況（平成19年2月）

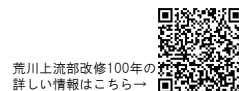


アクセス

川島排水機場

交通：JR高崎線「桶川駅」下車、東武バスウエスト「川越O4」乗車、「下狹」下車、徒歩約15分
住所：埼玉県比企郡川島町大字曲師地先

※一般の方の立ち入りはできません。見学については荒川上流河川事務所にお問い合わせください。



荒川上流部改修100年の詳しい情報はこちら→